

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学実習 I (対象理解/看護過程の展開)
講師名	実習担当者	開講年次	2 年次
単位数 (時間)	2 単位 (90 時間)		
<p>目的：健康障害のある成人・老年期にある対象の特徴をとらえて病態や治療計画を理解し、生活者としての視点から対象の健康を維持・向上する看護が実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>目標：1. 健康障害のある成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解できる 2. 健康障害のある成人・老年期にある対象の健康レベルに応じた日常生活援助が安全・安楽に実施できる 3. 健康障害のある成人・老年期にある対象の検査、治療、処置に伴う影響を理解し援助ができる 4. 健康障害のある成人・老年期にある対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる 5. 看護者として必要な態度を身につけることができる</p>			
授 業 内 容			
1. 健康障害のある成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的な側面からの理解 1) 入院までの健康状態：健康に対する意識・既往歴 2) 入院前の生活状況：生活背景・生活習慣・生活史 3) 入院から現在までの健康障害：現疾患・合併症の有無 4) 健康障害のある成人・老年期にある対象の身体的側面の理解 5) 健康障害のある成人・老年期にある対象の精神的側面の理解 6) 健康障害のある成人・老年期にある対象の社会的側面の理解 7) 健康障害のある成人・老年期にある対象の統合的理解 身体的側面、精神的側面、社会的側面から得た情報の統合 2. 健康障害のある成人・老年期にある対象の健康レベルに応じた日常生活援助の実施 1) 健康障害や加齢に応じたコミュニケーション方法 2) 健康障害や加齢に伴う ADL・IADL を考慮した日常生活援助		3) 安全な環境の調整と危険防止への援助 4) 対象の意思決定への支援 3. 健康障害のある成人・老年期にある対象の検査、治療、処置に伴う影響の理解と援助 1) 治療、検査、処置が対象に与える影響の理解 2) 対象にとって、安全で安楽な治療、検査、処置の援助 4. 健康障害のある成人・老年期にある対象とその家族の継続看護に向けた援助の理解 1) 対象とその家族の今後の生活に向けた援助 (指導・教育) 2) 退院支援への理解 5. 看護者として必要な態度 1) 相手(患者・家族・医師・看護師・他職種)を尊重し、思いやる姿勢 2) 学習に対しての主体的な取り組み 3) チームワーク 4) 安全管理への配慮 5) 自己の看護観の明確化	
授業方法	臨地実習	授業場所	
評価方法	* 以下の内容を実習評価表(100%)に沿って評価を行う 患者理解・看護実践・実習態度・出席状況、実習レポート		
備考			